

「2011語り部交流会inあきた」

～ 『結い』の精神^{こころ}でつなげよう、秋田の元気、東北へ ～

開催概要

- 目的：農村における「結い」の精神^{こころ}を見つめ直し、これを秋田の農村振興や東北の復興に活かしていくことができないか考える。
- 主催：秋田県
共催：あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議
秋田県農村振興技術連盟
- 協力：平野啓子（「語り部交流会」企画・開催指導）、農林水産省
後援：美郷町、秋田県土地改良事業団体連合会

開催日時：平成23年11月19日（土） 13時～16時

会場：秋田県仙北郡美郷町飯詰
「まなびおん美郷」公民館コンベンションホール

参集範囲：一般県民、小中学生、農業者、土地改良区職員、行政関係者

参加人数：400人

「2011語り部交流会inあきた」

～ 『結い』の精神^{こころ}でつなげよう、秋田の元気、東北へ ～

プログラム

開 会	13:00
あいさつ（主催者：秋田県）	
あいさつ（来 賓：前農林水産省農村振興局次長 齋藤晴美）	
第1部「講演・語り・感想」	13:10
(1)講演	
「美しき水の郷あきた」にみる農村の『結い』	
秋田県山本地域振興局長 菅原 徳蔵	
(2)語り	
「語り」を通して知る日本の『結い』の精神 ^{こころ}	
語り部 平野 啓子	
(休 憩)	14:40
第2部「意見交換会」	14:50
テーマ：農村における「結い」の精神 ^{こころ} を見つめ直す	
コーディネーター：平野 啓子（語り部）	
パネラー： 松田 知己（美郷町長）	
伊藤 稔（仙北平野土地改良区理事長）	
菅原 徳蔵（秋田県山本地域振興局長）	
オブザーバー： 齋藤 晴美（前農林水産省農村振興局次長）	
閉 会	16:00

「2011 語り部交流会 in あきた」の開催について

1. コンセプト

○『結い』の精神を再確認し、秋田の農村振興や東北の復興につなげる

東北の農村各地においては、急速に進む過疎高齢化をはじめとした農村固有の課題に加え、東日本大震災や原発問題による農業農村における先行きの不安等から、活力の低迷に歯止めのかからない状態が続いている。

こうした中、秋田の農村に暮らす者、農村振興に携わる者たちが、自身の足もとにある疏水や農地の歴史と現代への継承、農村の発展に生涯を捧げた郷土の先人たちの足跡等を見つめ直すことにより、農村に宿り続ける『結い』の精神を再確認する。

また、文献などから日本古来から現代に受け継がれてきた『結い』の精神を知ることにより、これを農村振興に活かし、さらに発信することで、秋田の農村振興や東北農業の再生につなげていくことができないかを考える。

第1部 講演・語り

(1)秋田の農村に脈々と受け継がれる「結い」の精神を再確認

身近にある農村の水や土の歴史を振り返り、その背景にある農村における「結い」の大切さ、強さについて考える。

○疏水の誕生、農地の開墾の歴史にみる「結い」の精神

百数十年にわたる水への挑戦の末誕生した、秋田県最大の穀倉地帯である仙北平野の約4,000haの農地を潤す、全国疏水百選の一つ「田沢疏水」。その建設と開墾の歴史は、想像を絶する苦難の連続であったが、新生の大地の誕生を夢見た入植者同士が互いに励まし合い助け合い実を結んだ、まさに「結い」の精神の結晶と言える。そして、その木訥で力強い農村の「結い」の精神は、現在も農業用水の利用等において受け継がれている。

○農村の発展に生涯を捧げた郷土の偉人にみる「結い」の精神

秋田で「聖農」と称される石川理紀之助は、秋田県農業の発展の大きな原動力となった人物。「俺は農民だ。農民が農民を助けなくて誰が助けると言うのだ」「寝ていて人を起こすことなかれ」・・・数々の石川翁の名言からは、自ら範を示し農村振興に対する強い意志を示すことで、必ずやその意志を受け継いでくれる者が現れるという強靱な信念が感じられる。その精神力の陰には、農村に暮らす者が一丸となって皆で支え合う農村の「結い」の精神が宿る。

(2) 古典などの語りを通して、日本古来の「結い」の精神を知る

農村に宿り続ける「結い」の精神は、日本古来より受け継がれてきたものである。この「結い」の精神を、古典から現代までの文献から知ることができないだろうか。

時代を超えて受け継がれてきた日本の「結い」の原点を知ること、古の「結い」が現代の「結い」にどのようにして受け継がれてきたのか、また、古の「結い」を現代の暮らしや生活に置き換えて活かすことができないかを考える。

第2部 意見交換

(1) (各パネラーの取組)

○疏水や湧水を地域の宝とし、「結い」の精神を町づくりの中に活かす（美郷町）

秋田県美郷町は、水環境保全条例を制定し、地域の湧水やその水源の環境を大切にしながら、「水」の保全と活用を通じた特色ある町づくりを進めている。

湧水の水利用のルールや、湧水の枯渇を防ぐ涵養池、湧水に棲む絶滅危惧種「イバラトミヨ」の保全活動などを、「結い」の精神により実践し続けている。

また、子供たちの環境保全活動や水源林の植樹等を通じた環境学習にも積極的に取り組んでいる。

○農業用水の利用や水路の保全活動に受け継がれている「結い」の精神 （仙北平野土地改良区）

秋田県最大の穀倉地帯である仙北平野の約1万haの水を管理する仙北平野土地改良区の管内には、水路の路線ごとに34の水利組合があり、それらが連携・協力することで、水源から水口までの農業用水の利用を成り立たせている。水不足や水争いの時代から現代に至るまで、「結い」の精神無くして、農業用水の保全・管理がありえないことを、仙北平野は立証している。

(2) 意見交換

疏水の誕生や開墾の歴史から知ることのできる農村の「結い」、古典から現代までの文献から知ることのできる日本古来の「結い」、現在の町づくりや農業用水の保全・管理に活かされている「結い」、様々な視点から農村における「結い」の精神を見つめ直し、これを秋田の農村振興や東北農業の再生に活かしていくことができないか、意見交換を行う。